史学地理学科主催 2013 年度秋季フィールドワーク
中国石碑の里を訪ねよう
――山梨「大門碑林公園」での臨地講義と拓本体験
主催　文学部アジア史専攻

今日世界では、石に刻まれた碑文（石碑）は歴史の生の姿を伝える貴重な史料として、広く注目されています。碑文の本場というと中国があげられ、日本の石刻文化に大きな影響を与えました。私たちがよく目にする墓石や墓碑、公園や道端に残る記念碑や文学碑などは、そのような背景をもって生まれました。

中国では古来多くの名碑が造られ、歴史研究はもとより書（書法）や文字や美術などの研究、また鑑賞の対象として、人々の心をとらえてきました。そのため関心をもつ人たちは現地にまで足を運び、熱心に勉強してきました。しかしそれらとほぼ同じものが日本国内に存在することは余り知られていない。東京の西隣の山梨県甲府市からやや南に下った市川三郷町の山腹に開かれた「大門碑林公園」がその場所です。

本年前期には、日本の稲作の発祥地とされる静岡の登呂遺跡を見学しました。後期はアジア史専攻が窓口となり、山梨県の「大門碑林公園」にある中国大型名碑（16 点）を見学・調査し、あわせて拓本の採り方（採拓）を実地体験します。現地にはアジア史専攻の教員（氣賀澤保規教授）の他、文学部の兼任講師や助手も同行し、詳しく解説いたします。

歴史が残した名碑の前で、石刻文化がもつ面白さを一緒に味わいましょう。史学地理学科の学生であれば、だれでも歓迎です。また楽しい親睦を深める機会にもします。

記

日　時　2013 年 12 月 1 日（日）

日　程　大学手配のマイクロバスで同一行動

朝 8 時　駿河台キャンパス・リバティタワー前集合、出発。
朝 8 時 20 分　明治大学和泉キャンパス正門前（ここから乗車も可）
中央自動車道を利用。11 時前に現地到着
11 時―午後 2 時　碑刻見学、拓本実習　その間に昼食※
午後 2 時　現地出発　午後 5 時　和泉校舎正門前（途中下車可）
午後 5 時 30 分　駿河台リバティタワー前、解散

※昼食する場所は現地にはありません。各自適当に準備し持参して下さい。

見学地　市川三郷町大門碑林公園（山梨県西八代郡市川三郷町市川大門）
〒409－3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門 4930
TEL：055（272）7100　FAX：055（272）0499

参加費　1,000 円（ただし交通費・見学料金などに大学の補助が出ます。）

対象者　定数 20 名（史学地理学科の学部生すべて。他学科生でも相談に応じます）
参加希望者は各キャンパスの文学部事務室に、氏名と専攻名、クラス番号、連絡先（住所と電話）を伝えて下さい。アジア史専攻の教員に直接伝えても結構です。
事前に名簿を文学部に提出し、正規の課外活動としての手続きを行います。

引率者　氣賀澤保規（文学部アジア史専攻・教員）
携帯 090－6477－5634　mail：kegasawa@kisc.meiji.ac.jp　以上